

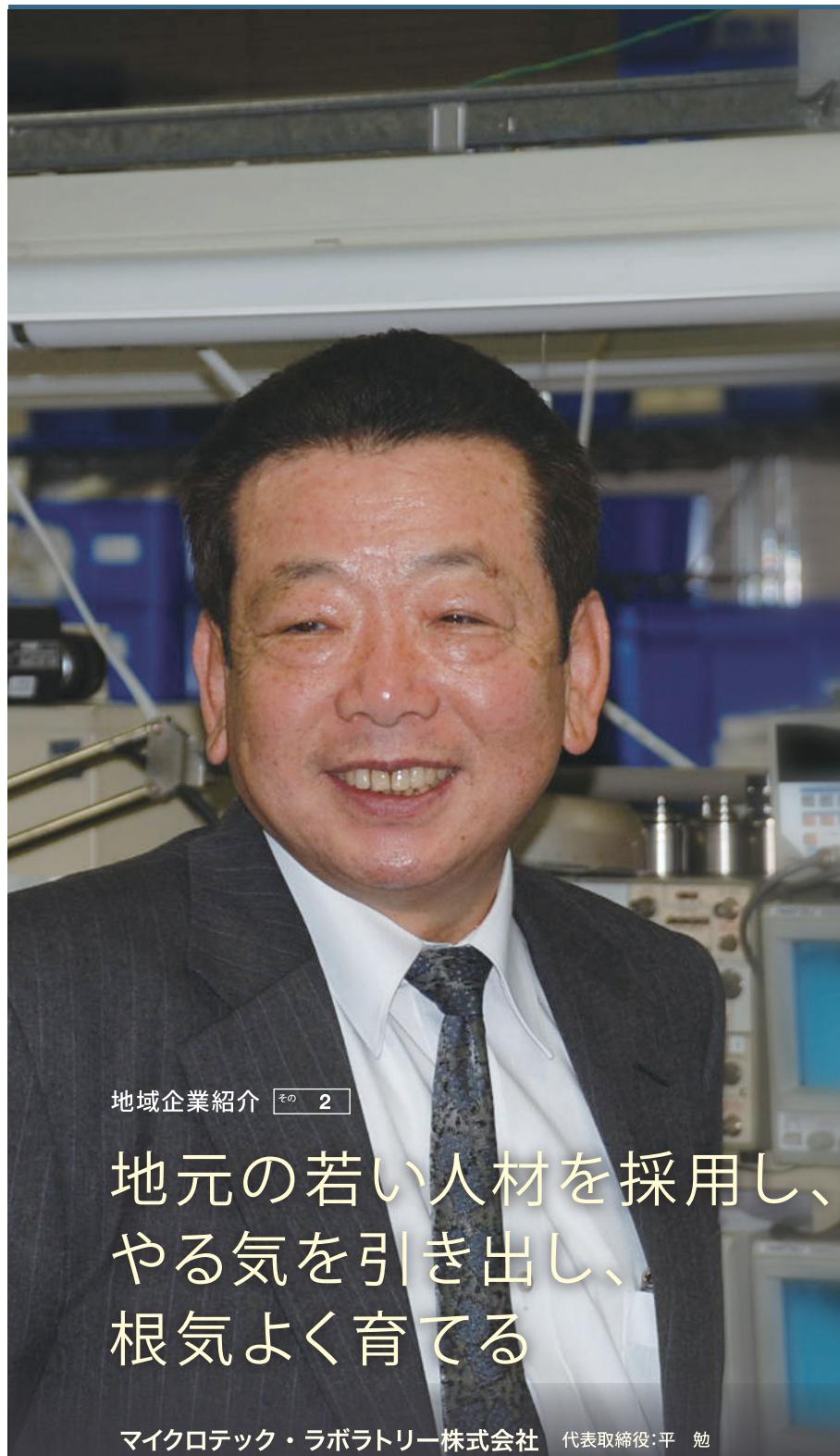
SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行 No.

2

発行日：2009年2月15日(日)



地域企業紹介 その 2

**地元の若い人材を採用し、
やる気を引き出し、
根気よく育てる**

マイクロテック・ラボラトリー株式会社 代表取締役:平 勉
所在地:相模原市上鶴間本町8-1-46 資本金:4,250万円 年商:13億円
創業:1981年2月 事業内容:エンコーダの心臓部であるスリット板からエンコーダ本体までの一貫した設計、製作、製造 従業員数:54名

ウェブサイト: <http://www.mtl.co.jp/>

国内唯一のエンコーダ専業メーカー

相模原市上鶴間本町に国内唯一のエンコーダ専業メーカーである「マイクロテック・ラボラトリー株式会社」の平勉社長を訪ねました。エンコーダはものの動作を制御するのに必要な機器。長さ、角度、回転などを検出し、電気信号に変換して出力する機能を持つ。エレベーター、自動ドアなど動くもののほとんどで使われている。最近よく話題になる二足歩行ロボットでは脚、腕、首などの関節部分に同社の超小型ロータリーエンコーダが使われ人間に近い滑らかな動作を実現している。

製図機械の大手メーカーの生産・開発部門での経験から、ものづくりで世の中に貢献しようとエンコーダの将来性を確信しスピナウトし設立した。創業から28年、家電、自動車、産業用機器などあらゆる分野でデジタル化が進みエンコーダの市場は飛躍的に広がっている。同社は小型のロータリーエンコーダを武器に内視鏡、手術用装置、電子顕微鏡などの医療機器や放送用カメラ、カラーコピー機などの情報関連機器の分野で確固たる地位を築いている。

同社のこだわりは、「地元」「人材育成」「終身雇用」。「ものづくり企業がたくさん集まる活気のある相模原の風土が好きだし製造業に力を入れる行政の姿勢も評価している」と平社長は言う。ホームページの採用情報には「地元で最先端技術に挑戦しよう やる気のある製造・技術者 正社員募集」とある。54名いる従業員のほとんどが相模原市や隣接する町田市に住む。「地元の人の定着率が高い」「重要なのはやる気と好奇心。若い人が本気になれば優秀な人材に育つ」。

地元の若い人材を採用し、やる気を引き出し、根気よく育てる。これが平社長の信念であり強い技術力を支える源泉だと感じた。

入居企業紹介 その3,4

SICに入居している企業をご紹介します

サイエナジー株式会社

軟X線を活用し、新たな検出器を開発

サイエナジー株式会社（代表取締役元田良一）は、2005年4月に設立した研究開発型のベンチャー企業で、X線による非破壊検査装置の開発・製造販売等に有効に活用できます。

同社技術・製品は、工業分野から医療分野まで幅広い産業に展開が可能です。お客様のニーズに的確に迅速に対応できるように、技術革新を続けています。お困りのことがあれば、まずは気軽にご相談下さい。デモ機による評価も随時受け付けています。

軟X線を用いると、低密度の物質を検出し易くなるメリットがあり、これまで困難であった虫、プラスチック、フィルム、気泡等を検出できるようになりました。これらを検出するニーズは非常に高いにもかかわらず、既存の技術・製品では満足のいく成果を得られておらず、現在多くのお客様から高い評価を頂いています。

具体的な用途としては、加工食品工

場での異物検出、樹脂やゴムの成形時に混入する気泡や異物等の検出、ICカード、フィルム多層基板の回路欠陥検査等に有効に活用できます。

同社技術・製品は、工業分野から医療分野まで幅広い産業に展開が可能です。お客様のニーズに的確に迅速に対応できるように、技術革新を続けています。お困りのことがあれば、まずは気軽にご相談下さい。デモ機による評価も随時受け付けています。

軟X線を用いると、低密度の物質を検出し易くなるメリットがあり、これまで困難であった虫、プラスチック、フィルム、気泡等を検出できるようになりました。これらを検出するニーズは非常に高いにもかかわらず、既存の技術・製品では満足のいく成果を得られておらず、現在多くのお客様から高い評価を頂いています。

具体的な用途としては、加工食品工

プラスアルファドットティヴィー
映像活用、展示会の出展に『プラスアルファ』

2008年5月開業したプラスアルファドットティヴィー（代表 北 桂樹（きた けいじゅ））は、動画・CM制作を軸にコンテンツ制作の企画立案、デザイン・制作、プロモーション支援をしています。

北氏は、大学卒業後広告代理店に勤務し、営業・映像制作・編集を手がけ大手映像制作会社へ技術職として転職後、SICで独立、起業しました。

営業から始めた北氏は、お客様が何を求め、期待し、心配しているのか肌身に染みて知っています。だからこそ、いわゆる「業界の人」とは一味ちがい、お客様の立場に立ったコスト意識が徹底しています。

数秒のCMに莫大な費用がかかると誰もが考えますが、一人で全てを行う為、予算に応じた映像・動画を作ることができ、そして、何よりも、文字や画像だけでは伝えられない経営者として技術者の気持ちを伝えることができる

のです。

インターネットの環境が整ってきた昨今、WEB上での動画コンテンツはますます当たり前になり、さらに多くの可能性を秘めています。その可能性はただ自社の告知として使うだけでなく、WEBサイトを訪れた人の興味のランク付けをするためのツールとしても利用し、営業支援が可能です。

たとえば、展示会に出展後集めた名刺の中から興味の度合いの高い順にA（優良顧客）、B、Cなどと分類することなどです。

展示会出展後、数千万円する機器が立て続けに売れた事例もあります。

企業の規模に関係なく、「うちの（会社の）広報に動画があったらな・・・でも。」と思っている企業の方は、まずはご相談ください。

＜連絡先＞ プラスアルファドットティヴィー
代表 北 桂樹（きた けいじゅ）
さがみはら産業創造センター SIC1-325号室
TEL/FAX : 042-770-9709
ウェブ : <http://plus-alpha.tv>

樹脂ボトル
中の毛髪

枝豆の中にいる虫

これまでの作品
Jubilo iwata NETZ
チケットぴあ プロモーションビデオ
三井不動産 はままつ冬の虫
他、大きなイベントの動画配信にも参加しています。

株式会社浜銀総合研究所 経営コンサルティング部
部長 寺本 明輝（てらもと あきてる）

事業構想で会社を導く
企業経営と航海

と思います。
以上のように、事業構想は、大別すると企業理念、経営ビジョン、経営戦略、経営計画で構成されますが、それぞれ次のように定義されます。

企業理念は主にミッションとバリューから構成されます。ミッションとは、使命であり、まさしく命を使うものを意味し、「自社は何のために存在しているのか」といった存在目的・意義となります。バリューとは、「自社はどこに価値をおいているのか」といった経営行動の規範を示した価値基準であり、経営判断の拠りどころとなるものです。

経営ビジョンは、「自社はどの分野で事業を展開するのか」といった事業領域であるドメインをベースとした「自社がどんな企業になろうとしているのか」といった企業の将来像です。具体的には10年後の経営目標を示したものとなります。

経営戦略は、「ビジョン達成のために、どの市場を対象にして、どの製品・サービスを提供するのか」「そのためには、どのように経営資源の重点配分を行うのか」といった企業の目標実現のため経営の方向付け、ベクトルと言えます。

さらに経営戦略を時間軸と能力軸の視点から「何を、いつまでに、誰が、いくらで、どのように行うのか」といった行動手順を示し、経営活動を規定し具体化したものが経営計画となります。

これら相互に関係づけられた各要素は、上位に位置づけられるものほど抽象度が高いものとなり、実現までに長い時間を

要するものとなります。よって、これらを実行性を担保するためには、経営計画の段階で次の点に特に留意する必要があります。

(1)適切な目標設定

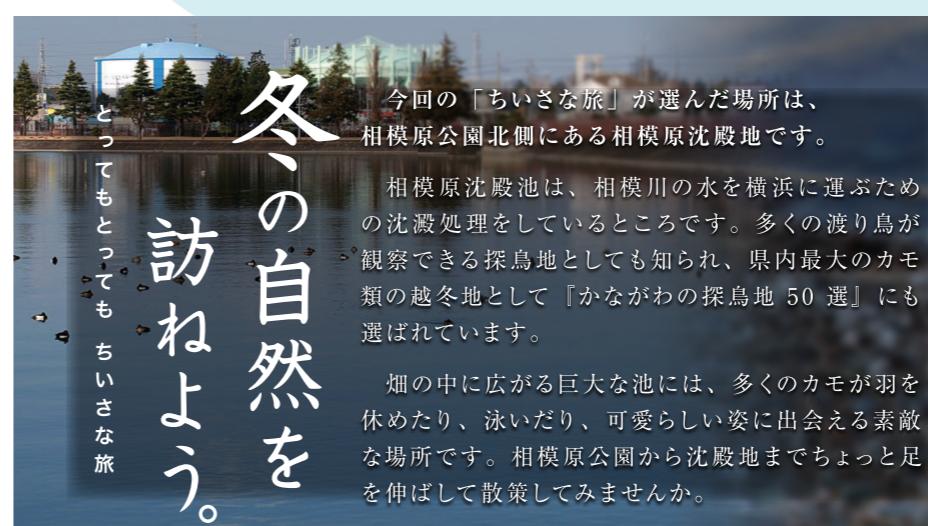
目標が適切でない、あるいは明確でないケースでは、企業がどのレベルを目指しているかといったゴールの見えない活動をしていることとなりますので、よりチャレンジブルかつ具体性等のある目標設定が必要となります。

- ①具 体 性 …具体的であること
- ②計 測 可 能 性 …計測可能であること
- ③実 現 可 能 性 …チャレンジブルかつ実現可能性のあること
- ④管 理 可 能 性 …当該部門・組織の責任の範囲内で管理可能であること
- ⑤期 限 明 確 性 …実施時期・達成期限が明確になっていること

(2)実現性のある行動計画

目標を設定しても、実行しなくては何の意味もありません。そのためには、経営課題を緊急度、収益貢献度、実現可能性といった切り口から優先順位をつけ、より具体的な行動計画に落とし込むことが大切です。

- ①WHAT …(何を テーマ・課題)
- ②WHY …(なぜ テーマ・課題の選択理由)
- ③WHO …(誰が 責任者・担当者)
- ④WHERE …(どこで 実施責任部門)
- ⑤WHEN …(いつ 実施時期・期限)
- ⑥HOW …(どのように 具体的施策)



撮影者:SIC稻垣中村 撮影日時:09年1月

時代に打ち勝つ 『経営力』が求められている

昨今の激変の時代にあって、景気の波に左右されない、時代に打ち勝つ経営力こそが、企業の成長の鍵となります。経営者に求められているのは、将来目指すべき方向を明確にし、多様な局面で適切な判断をし、社員や関係者を導く「経営力（リーダーシップ）」です。

SIC経営塾では、先端的な企業のケーススタディーを通じ、経営の理論と実践を学ぶとともに、塾生自らが事業構想を再構築することによって「真の経営力」を養成することを最終目的としています。

【経営塾の5つの特徴】

1. 同一講師による一貫した指導

一人の講師により塾生それぞれの環境の違いを良く理解し指導します。

2. ディスカッションを重視した講座

講師と塾生、塾生同士のディスカッションが中心となります。

3. 課題シートによる自社の分析

「現状認識」「経営戦略」「財務」「組織」などの課題シートの作成により、自社を客観的に分析し、事業構想を再構築してゆきます。

4. 業種や規模の異なる方との交流

参加塾生の企業の業種や規模は様々で、あまり知り合う機会の少ない方々との交流ができます。

5. 計画・戦略策定のスキーム

事業構想の再構築をしてゆく過程で、計画や戦略を考える時に必要な考え方方が身に付くよう指導しています。

本塾の講師は、浜銀総合研究所の経営コンサルティング部の寺本部長。同ページでご紹介しています「新・挑戦する独創企業」の著者でもあります。

SIC経営塾は、経営者や経営幹部向けに、「自社の事業構想を再構築する。」をテーマとしたセミナーで、2002年の開講から、これまでに7年間で65名が受講しました。毎年6月から翌年の1月までの8ヶ月の長丁場ですが、最終の事業構想の発表会を終えたときは、やり遂げた達成感にあふれていると思います。また、あまり出会うことが少ない異業種の方々との交流の場でもあり、最近では、経営塾を卒業した後で、塾生同士で定期的に同期会を開催しているケースもあります。今年より、受講費用の割引制度を設けましたので、ぜひ、SICまでお問い合わせください。（SIC経営塾担当 中村 浩）



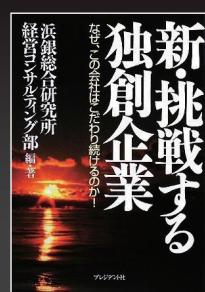
「新・挑戦する独創企業」

—なぜ、この会社はこだわり続けるのか！—

経営塾御馴染み

寺本明輝氏 共著（浜銀総合研究所）のご紹介

本書で紹介されている企業は、製品・サービス、事業の仕組み、あるいはマネジメントにおいて、独自の取り組みを展開し、好業績を上げている中小企業です。中小企業の新しい動きとともに、時を越えて存在する経営の基本原則のようなものを伝えています。



SICでご購入頂けます。1冊1,890円

SICイベントカレンダー 2009年2月～

2月25日(水)～27日(金) 国際水素・燃料電池展(ビッグサイト)

3月5日(木) 「SICテクノロジーマッチング」

3月16日(月) 南西フォーラム

編集後記: 地球温暖化のせいか、季節が分かりにくくなっていますが、自然の中ではなく、社内で季節を感じさせるものがあると思います。SICの中では、事業で季節を感じる事があります。「ああ、もうそんな季節か。月日が経つのは早いものだ。」と口に出てくるほど長く続き、季節まで感じてしまう事業は、皆さんによって守られています。2009年度は、そんなSICの事業もご紹介してまいります。（SIC広報）

★ご意見・ご感想をお待ちしています。

(株)さがみはら産業創造センター(SIC) 〒229-1131 相模原市西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077 E-mail: koho@sic-sagamihara.jp